

水辺の生きもの

小川洋子（八千代市）

日 時：2016 年 7 月 10 日（日）10～12 時 天候：晴れ

参加者：24 名（大人 12 名、子ども 12 名）

担当指導員：山下美佐子、小川洋子

朝から夏らしい青空が広がって気温は 30 度を超えそう。今回は午前中の開催、この気温と開始時間の変更で気を揉んだが、子どもたちを含む 24 人が参加してくれた。

観察会は「水辺の生きもののつながり」について話し、2 班に分かれてスタート。私の担当した班は 2 歳から小学校低学年の子どもたちとその保護者。小学生たちは捕虫網を持ち張り切っている。スタートして数メートルも行かないうちにアカトンボをゲット。

「アキアカネだ」と言うが、アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボ、コノシメトンボの写真を見てもらった。＜翅の先が黒いからアキアカネではない。胸側部の線が下向きの U、ということはコノシメトンボ＞、こどもたちは自分で解答を得た。トンボの持ち方を教え、次々にトンボをパスした。指をチョキにして順番を待ち、回す子は次の子が持ちやすいように少し隙間をあけて渡した。その間にもう 1 頭アカトンボをゲット。比べてみると＜翅の先は黒いけど胸側部の線は上に伸びている。ノシメトンボ＞だ。両方を並べてみると、コノシメの方が少しだけ小さめ。

トンボを放した時何かが動いた。「トカゲ」と言ったら、子どもから「ニホントカゲ」という言葉が返ってきた。今日の子どもたちは頼もしい。その後も虫を見つけながらようやく藤棚下へ。ここで吸水？タイム。湧水池から何やら「ウォー、ウォー」というような鈍い音が聞こえてきた。少しの間この音を聞いてもらって種明かし。発信源はウシガエルだ。ウシガエル、ニホンアカガエル、ニホンアマガエルのほぼ実物大の写真を見せて、大きさの違いとその影響を考えてもらった。路を歩けば次々に生き物が見つかる。チョウやトンボ、甲虫などの仲間たちだ。オニヤンマのヤゴの抜け殻を見つけたとき、挨拶に来たかのようにオニヤンマが頭上を飛んだ。菖蒲田の先の東屋では前日に用意したヤゴやドジョウ、メダカ、アメンボ類など、水辺の生き物をじっくり見てもらった。4 頭いたアメリカザリガニは大きい 1 頭がほかの 3 頭を一晩で食い尽くし、籠には食べ残った頭が 1 個転がっていた。アメリカザリガニの生態系への影響が察せられた。近くの水路でメダカの集団を発見、歓声が上がった。ヤマトタマムシを捕まえ、美しさに驚きの声。虫をつかめなかった子が最後に大きなカブトムシを指導員の手助けで捕らえ、得意そう。



あっという間に終了時間が来てしまった。「楽しかった」「トンボに触れた」と子どもたち、「子どもたちが生き生きしていた」と大人の方。8 月のテーマは「仲良くなろう！セミとトンボ」。来月も参加して下さるようご案内をして解散した。